

福島県男女共生センター広報誌

未来館 NEWS

“自分らしさ”を生かした未来へ

特集

未来館国際シンポジウム

世界の大使が語る、日本の今

もっと知ろう世界のこと、日本のこと



vol.

36

2009.7



2009年3月14日(土)に、オマーン・スルタン国、コロンビア共和国、ニュージーランドの大使閣下をお招きし、それぞれの国の文化や生活、社会における女性の地位等についてお話しいただきました。

また、パネルディスカッションでは、教育やワーク・ライフ・バランスの現状、日本女性の社会進出などについて、意見交換を行いました。

オマーン・スルタン国 特命全権大使 ハリッド・ハシル・アル・ムスラヒ閣下



オマーンは、旧政権時代には変化や進歩を拒む孤立した国で、女性に対して、男性と平等な権利は認められていませんでした。しかし、1970年に現政権が誕生してからは、教育を受けた女性が活躍することが国の発展にとって重要であるという認識のもと、女性にも法的な権利や公平な機会が与え

られています。女性の投票権が認められたのも、女性の国会議員や閣僚が生まれたのも中東地域ではオマーンが初めてでした。現在は、4名の大臣、3名の大使のほか、検察庁長官にも女性が任命されています。公務員等の約30%が女性で、うち12%が幹部職となっており、また、民間でも多数の女性が会長や最高経営責任者等の重要なポストに就いています。女性を取り巻く状況は急激に変化してきており、いまでは、先進国とほぼ同等な権利が保障されています。

未来館 国際シンポジウム

世界の“大使が”



■**下村館長** 昨年に引き続きこの国際シンポジウムを開催できたことを、関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。さっそくですが、最近は女性が仕事を持つことが当たり前の時代になりましたが、いまだに家事や育児、介護は女性の役割とされ、仕事を辞めていく女性が多いのが現状です。同様の問題を各国でも抱えているのでしょうか。

■**ムスラヒ大使** オマーンでも、女性が仕事を辞めて家族の面倒をみるというケースは多いです。女性がキャリアを持ち、家庭と仕事を両立させることは非常に困難な状況にあるため、成功した女性には独身者が多いようです。男性も家事や育児にベストを尽くしますが、女性は家庭に入り、家事と育児に専念すべきという宗教的価値観が大きな影響力を持っています。

■**カルデナス大使** コロンビアでは、託児所やヘルパー、家族の助けなど、育児への多様な援助を受けやすい環境が整っています。また、子どもとの時間を犠牲にすることのないようパートタイム労働も推奨しています。しかし、女性がフルタイムで働く必要がある場合には、育児との両立が難しいため、結婚年齢が上がり、場合によっては独身を選ぶ人も増えています。

■**ケネディ大使** ニュージーランドは、女性も男性も、昇

進のためには休まずに仕事をするのが当たり前の社会になっています。特に若い人達は、物理的な豊かさを追求め、それが満たされれば精神的な満足が得られると考えています。この背景には、ワーク・ライフ・バランスという問題を越えたもっと大きな社会的問題があると思われます。

■**下村館長** 仕事と家庭の両立が困難であることが少子化の原因の一つであると思います。良い妻や母になることだけが女性の生き方だった頃にくらべ、現在は多様な選択肢が増えて、女性達はキャリアも家庭も大事にしたいと望むようになりました。しかし、現実には、育児への援助が足りないため、複数の子どもを育てることが厳しい環境で、仕事と家庭のバランスをとることが大変難しくなっています。

ところで、近年女性の教育レベルが上がってきているようですが、各国の状況はいかがでしょうか。

■**ムスラヒ大使** 女性も高等教育を受けることができるようになりましたし、中等教育においては女子生徒がトップになることもあります。オマーンでは、子供への教育を最重要課題としており、政府教育機関の授業料等を無料としています。良い仕事に就くための競争が厳しくなっているため、資格を取得することが重要視されています。

■**カルデナス大使** 女性の方が男性よりも高い教育レベルにありますが、女性を優遇することは特にありません。男女の区別なく同様に教育を受けるチャンスがあり、それが自然と反映されている結果なのでしょう。しいて言えば、女性

International Symposium

コロンビア共和国 特命全権大使
パトリシア・エウヘニア・カルデナス・サンタマリア閣下



コロンビアの女性は、1933年までは中等教育までしか受けることができませんでした。その後、高等教育が認められ、いまでは大学進学率が男性よりも高くなり、そのことが女性のエンパワメントに大きな影響を及ぼしました。1954年に参政権を獲得して以来、政治のみならず経済、芸術、文化等あらゆる分野に女性が進出しています。特に女性の就業率は30年間で30%から60%に倍増し、その収入は世帯収入の約40%となりました。政府は、男女の社会的格差を解消し、男女平等を促進するためのプログラムの一つとして大統領諮問局を設け、女性の健康、権利、平等に関して改善を進めており、また、「国際婦人デー」は国を挙げての重要なイベントとして位置づけています。様々な分野・年齢層へ調査した結果、68%の女性が「男女差別はない」と回答していますが、賃金や機会均等以外にもまだまだ解決すべき問題は残っています。



ニュージーランド 特命全権大使
イアン・フォーブス・ケネディ閣下



ニュージーランドは、1893年に世界で初めて女性に参政権を認め、さらにその26年後に被選挙権も認めました。近年では、総督、首相、最高裁判所長官、国会議長といった国家の要職を女性が占めた時期もありましたが、これがニュースになったのは女性が重要なポストに就くことが珍しかったからです。現在、政府機関の女性上級管理職の割合は41%となりましたが、上場企業上位100社の女性役員の割合は9%とごくわずかです。政府は政府関係機関の委員会等における女性比率50%を目標に掲げ、公共分野のみならず民間企業とも協力して男女間の不均衡の是正に取り組んでいます。ウォン女性問題担当大臣は、女性は自らの意志で生き方を選択すべきで、その評価は、経済活動に対してだけでなく家庭や地域社会への貢献に対しても行われるべきであるとしています。



語る、日本の今”

—もっと知ろう世界のこと、 日本のこと—

の人口が52%と男性よりも多いことが、女性の教育レベルを高めている理由かもしれません。

■ ■ ■

■**下村館長** ニュージーランドは世界で初めて女性参政権を認めた国で、また、一時期国家の主要なポストを女性が占めたと伺いましたが、このことに関して男性の反応はいかがでしたか。

■**ケネディ大使** 女性に選挙権を与えることについて、多くの男性が反対しましたが、当時の首相の英断により実現しました。しかし、昨今主要ポストに女性が選ばれていることに関しては、女性だからという理由で任命されたわけではなく、優秀な女性達が現れたためであり、指導力があれば性別を問わずに選ぶべきだという考えのもと自然に受け入れられました。

■ ■ ■

■**下村館長** 最後に、日本の女性も最近は強くなったと言われるますが、政治、経済、教育、その他、あらゆる分野で決定権を持っている女性はまだまだ少数です。このような日本の現状や女性の社会進出について、皆様はどのようにお考えでしょうか。

■**ムスラヒ大使** 日本で、政府や企業、団体などの幹部にお会いしていますが、その中に女性がいたという記憶はありません。日本のような先進国であれば女性の地位も高いと考えていたので、女性が社会で決定権のある地位にいないことに驚いています。

■**カルデナス大使** 日本では、女性が決定権のある地位に就くことが難しいと感じました。沢山の女性にお会いして、能力があり、高等教育を受けているにもかかわらず、チャンスが少ないためにその地位を得ることができない状況に疑問を持っています。

■**ケネディ大使** 女性の社会進出には男性の支援は必要ですが、男性の犠牲の上に成り立つ必要はありません。男女が協力してお互いの活躍の場を広げることで、男性に犠牲を強いることなく、全てにおいてさらにより解決策を導き出すことができると思います。

■ ■ ■

■**下村館長** 本日は、それぞれの国が独自の素晴らしい文化や民族性、お国ぶりを持っていることがご理解いただけたのではないのでしょうか。世界が真に平和な人間集団となるためには、お互いが相手を理解し、その違いや多様性を認め合い、更に違いを楽しむことができる関係を築くことが必要です。また、文化、習慣、宗教、風俗などの違いはあっても、一方で、人間としては、皆、同じであるわけで、それを実践し、大切にするためにも、国際交流を発展させていくことはとても重要なことではないかと思います。本日ここにおいでの皆様には、何か小さな一歩でもいいので、自分でできる国際的なアクションを起こしていただきたいと思います。

大使の皆様、そして会場の皆さま、今日はありがとうございました。特に大使の方々には、ここ福島にいらしていただき、素晴らしいスピーチをいただいたことを心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

オマーン・スルタン国 特命全権大使

ハリッド・ハシル・アル・ムスラヒ閣下

3月15日(日曜日)、オマーン・スルタン国特命全権大使 ハリッド・ハシル・アル・ムスラヒ閣下、アビール・アイシャ夫人、アリージ・アル・ムスラヒ令嬢及び大使館職員の鈴木灯美子さんが、晴天に恵まれた二本松市内及びいわき市内をご視察されました。



二本松工芸館 田中家具

「二本松^{たんす}箆^{けやき}」をはじめとして、樺と桐を用いた民芸家具等をご覧になり、その優れた技術・デザイン・品質に感心されていました。



二本松工芸館田中家具にて
テーブルをご覧になる大使ご夫妻

小名浜散策

小名浜美食ホテル「創作ダイニング舷」での昼食後、小名浜アクアマリンパーク内を散策されました。犬がお好きなアビール夫人は、犬を連れて散歩している方に気軽に話しかけ、犬の話題に花を咲かせるなど楽しそうに交流を図られていました。



小名浜アクアマリンパーク内を
気持ちよく散策されました

アクアマリンふくしま

次に、「環境水族館アクアマリンふくしま」を訪れました。安部館長の案内で館内視察を行いました。黒潮と親潮がであう潮目の海を表現した「潮目の三角トンネル」の展示や福島豊かな自然を観察することができる「ふくしま

の川と沿岸」などをご覧になりました。特にアリージさんは、ゴマファザラシがお気に入りのようで、歓声をあげて長時間観察されていました。



安部館長のユーモア溢れる
説明を楽しみました

いわき絵のぼり「滝根庵」

最後に、いわき市泉の県指定伝統工芸品「いわき絵のぼり」の製作現場をご覧になりました。アリージさんは絵画

に関心があるとのことで、製作の過程を実演していた三代目絵のぼり師の辰昇さんの動きを興味深くご覧になっていましたが、「是非やってみよう」とのことから、急遽、椅子をテーブル代わりに絵のぼり教室が開催されました。



三代目絵のぼり師辰昇さんによる
製作現場を見学する大使一行

皆さんは、日本の伝統工芸の製作過程を体験でき、大変感激されていました。



絵のぼりに初挑戦する
アリージさん

各国大使閣下とご家族



シンポジウムには、各国の大使閣下がご家族と共にご来館されました。

皆様、福島県へは初めてのご来県ということもあり、男女共生センターをはじめ、二本松市内の様子にも興味を持たれたようでした。また、シンポジウム翌日の県内視察では、リラックスされたご様子で地元の方々と気軽に交流され、また、本県の伝統・文化に触れ大変ご満足されたご様子でした。

(写真左から)

アリージ・アル・ムスラヒ令嬢

アビール・アイシャ夫人

下村館長

ハリッド・ハシル・アル・ムスラヒ閣下

イアン・フォーブス・ケネディ閣下

バトリシア・カルデナス閣下

ダニエラ令嬢

ホアン・フェリペ令息

(ムスラヒ閣下ご家族)

(カルデナス閣下ご家族)



3月15日（日）、コロンビア共和国特命全権大使 パトリシア・エウヘニア・カルデナス・サンタマリア閣下、ホアン・フェリペ令息及びダニエラ令嬢が、二本松市内と会津若松市内をご視察されました。皆さんは、福島県にいらっしゃるの初めてとのことで、とても楽しんでいらっしゃった様子でした。

二本松工芸館 田中家具

300年の伝統を誇る二本松^{いんす}箆（へら）をはじめ、福島県産木材を使った伝統工芸品をご覧になりました。桐の箆が気に入られたようで、早速ご購入されました。



鶴ヶ城

城内の日本刀や鎧、白虎隊の肖像画など多くの展示品をご覧になりました。カルデナス大使は、展望台から



展望台からの眺めをお楽しみになりました

見える会津若松市内の眺めがとても気に入られたようです。

カルデナス大使は、福島は伝統文化とテクノロジーが融合しているところが素晴らしいとおっしゃっていました。

田事

「山菜わっぱ飯」、「鮎の塩焼き」など、会津の伝統料理をお召し上がりになりました。

また、サプライズとして、前日のシンポジウムに参加し

た会津若松市内の高校生から、フェリペさん、ダニエラさんに「会津絵ろうそく」がプレゼントされ、みんなで記念撮影をしました。



突然のプレゼントに笑顔のフェリペさんとダニエラさん

坂本乙造商店

会津塗りの伝統技術を現代デザインに取り入れた素敵なアクセサリーをご覧になりました。洋服と合わせて、ネックレスやイヤリングなどたくさんご購入されました。



会津塗りのアクセサリーを熱心にご覧になりました

末廣酒造嘉永蔵

日本酒の製造現場を視察され、日本酒がつけられる工程の解説に興味深く耳を傾けていらっしゃいました。カル



洗練された味わいの日本酒をお楽しみになりました

デナス大使はお酒がお好きようで、日本酒や梅酒をお土産にご購入されました。

各国紹介パネル展示

館内は、3カ国の政治、経済、文化などを紹介するパネルや写真、民族衣装などが展示されたほか、国旗などの装飾で飾られました。



ニュージーランド 特命全権大使 イアン・フォーブス・ケネディ閣下

県内視察



3月15日(日)、ニュージーランド特命全権大使 イアン・フォーブス・ケネディ閣下及び大使館職員の宮崎智世さんが北塩原村裏磐梯地区を視察されました。北塩原村はニュージーランドのツランギ地区と姉妹都市であり、毎年中学生がニュージーランドを訪れています。

磐梯山噴火記念館

磐梯山噴火記念館は、磐梯山の噴火後、磐梯高原がどのように変わったか、その自然のなかで生きる動物や植物について紹介しています。ニュージーランドも火山国という



磐梯山記念噴火記念館にて
(左下の球形のものは世界初の地震計)

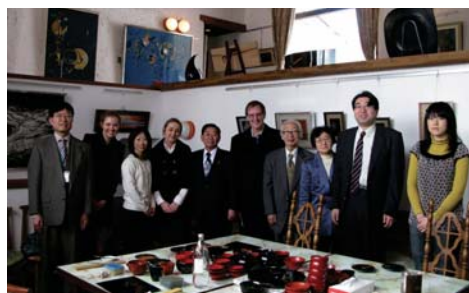
こともあり、ケネディ大使は大変興味深くご覧になりました。ニュージーランドの自然を活かしたエネルギー産業についてもお話しになりました。

漆芸工房^{つのだ}角田

北塩原村に工房を持つ漆芸家の角田純一さんを訪ねました。角田さんの作品をご覧になったあと、角田さんの指導により、小皿に絵付け体験をされました。筆遣いが難しいとのことでしたが、お気に入りなどのものを描き、カラフルな小皿に仕上がりました。



絵付け体験中のケネディ大使



漆芸工房角田にて、同行の北塩原村長
小椋敏一さん(大使左わき)、角田さん
ご一家と

裏磐梯ビジターセンター・五色沼

その他、裏磐梯ビジターセンターや五色沼を視察されました。今回の視察には北塩原村長をはじめ、たくさんの村民の方々にご協力いただきました。ニュージーランドを訪問された方も多く、環境問題に関する取り組みや自然を活かした観光等の話題で盛り上がりしました。そのなかでケネディ大使は、特に若い人材の交流が大切とお話をされました。

視察を終えて、ケネディ大使に今回の福島訪問についてお聞きしたところ、「福島の人々のよさが印象的だった」とのことでした。



裏磐梯ビジターセンターでは、裏磐梯の自然についての展示をご覧になりました



五色沼にて 地元のエコガイドの方に案内していただきました

参加者の声



● 日常では感じられなかった世界における日本の立場や、外国との共存などについて考えることができた。また、来年も来たいです。(10代女性)

● 文化が異なる者同士が互いに語り合うことで、お互いの価値に気づくことができると思った。(20代男性)

● 日本はまだ男女共生に対する理解や進歩がないと感じた。気づき、変えていかなければならないことがたくさんあると思った。(30代女性)

● 女性の地位向上のため、女性の側からも積極的に社会に働きかけることが必要だと感じました。(40代女性)

● 各国の実情や文化の違いなどがよく分かった。日本の男女との比較が楽しかった。(50代男性)

● どの国の女性も能力、キャリアを活かして国や国民に貢献している。日本との違いをより強く感じました。(60代女性)

● 大使の話が素晴らしく、各国が身近に感じられた。もっと多くの人々に聞いて欲しいと思った。(60代男性)

● 世界各国のことを知る機会を得て、国際的視野で日本を見直す必要性を痛感しました。(70代男性)

事業報告
Report 1

市町村等男女共同参画担当者研修会

『男女共同参画と地域づくり』『私流の元気な生き方』

日時：平成21年4月16日(木)～17日(金) 場所：福島県男女共生センター

市町村職員の方で、新しく男女共同参画担当者となった方を対象に、男女共同参画、ジェンダーの概念等について理解を深める研修会を開催し、県内各地から16名の方が参加しました。

1日目は、男女共同参画の基本的な考え方や国・県の施策等の講義と、『男女共同参画と地域づくり』～そこが知りたい、事業企画・展開・プラン作りQ&A』と題して、福島市男女共同参画センターの菊田由佳さんと、本宮市市長公室政策推進課の佐藤敬史さんから、これまで取り組んできた事例について発表があり、疑問点等について話し合いを行いました。

2日目は、初めに、『私流の元気な生き方』&フロアトーク』と題して、つむぎ企画及び素材広場の代表横田純子さんを講師に、横田さんの活動の実例をととして男女共同参画社会のあり方を考える講義がありました。引き続き、女性のための相談支援センターの鈴木栄子さんから『DV』とは?』と題し、男女共同参画に関連する問題の現状についての講話がありました。

【参加者の声】

- ・4月に着任したばかりで、基本を学びたかったため、大変勉強になりました。
- ・他市町村の事例を聞くことができ、新任担当者にはとても参考になりました。
- ・担当者同士の情報交換の場となり、有効でした。今後もぜひ続けてほしいです。



横田純子さんの講義の様子

事業報告
Report 2

市町村等男女共同参画担当者研修会

『福島県における男女共同参画推進の課題と今後のあり方』

日時：平成21年6月11日(木) 場所：福島県男女共生センター

市町村及び地方振興局の担当の方を対象に、男女共同参画社会に関する知識を深め、地域の実態に応じた事業をより適切、効果的に行っていただくための研修会を開催し、県内各地から42名の方が参加しました。

『福島県における男女共同参画推進の課題と今後のあり方』～なぜ、『男女共同参画プラン』づくりなのか～』と題した県人権男女共生課の堀切課長の講義の後に、NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事の安藤哲也さんから『今だからこそ、ワーク・ライフ・バランス』と題して、父親が育児に積極的に関わることのメリットや、行政、企業、地域社会等が父親の子育てを支える環境づくりを行うことの重要性、父親が変われば(笑って子育てをする父親になれば)、家庭や地域、企業そして社会をも変える可能性があることなど、ユーモアを交えてお話しいただきました。

安藤哲也さんの講義の様子



【参加者の声】

- ・プラン改訂を実施予定のため、研修を生かして様々な視点から取り組むようにしたい。
- ・ワーク・ライフ・バランス社会を作っていくことが大切だと強く感じた。また、その具現化について勉強していきたい。
- ・安藤さんの講演が興味深く、とても勉強になった。また聞きたい。
- ・当市の職場で、特に男性職員にも安藤さんのお話を聞いてもらいたい。管理職にも。

未来館フェスティバル

9.5^土-6^日

シンボルイベント 9/5 (土)

映画「受験のシンデレラ」上映 & 和田秀樹監督と県民・下村館長 とのトークイベント

そのほか、ご家族やお友達と一緒に参加できるにぎやかなイベントを
現在企画中です！詳細が決まり次第、ホームページやメールマガジンで
お知らせしますので、お楽しみに！



メールマガジンのご登録はこちらから

<http://www.f-miraikan.or.jp/pub/mmag/mmagmenu.aspx>

未来館フェスティバル ボランティア大募集！

フェスティバルをみんなで楽しもう！！

平成12年度のオープニングイベントから数えて今年で10回目の節目を迎える

「未来館フェスティバル」で活動する県民ボランティアを大募集しています！

主な活動期間・内容は以下のとおりです！

- 活動日：フェスティバル前日…9月4日（金）
当日…9月5日（土）、6日（日）
- 活動内容：来館者への対応（受付・案内等）
展示物・テント等の会場設営準備
保育 など
- 活動条件：無償で活動可能な15歳以上の福島県民が対象です。
なお、当センター負担でボランティア活動保険に加入します。（高校生も可）



いままでのフェスティバルではたくさんの
ボランティアの皆さんが活躍されています！

午前中だけ・午後だけの活動でもOK！初めてボランティア活動をする方も大歓迎！たくさん
の人たちとのふれあいがある「未来館フェスティバル」であなたの力をいかしてみませんか？

募集締切：7月31日（金）

申込・連絡先 福島県男女共生センター 企画調査課 電話 0243-23-8303

福島県男女共生センター広報誌

未来館 NEWS

“自分らしさ”を生かした未来へ

vol.
36
2009.7

■編集・発行 「未来館NEWS」

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター～女と男の未来館～

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL(0243)23-8301(代) FAX(0243)23-8312

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp

この広報誌は、
環境にやさしい大豆インキを使用しています。